



詩篇第一巻  
詩篇1-41篇

詩篇第一巻「主は王である」1:-41:

2012.6.19

a. 主は正者と悪者をさばく。主は貧者が叫ぶと答える。(1:-11:)

天の王座と正者と悪者をさばく(1:2-7/8:11) 主は叫ぶと聞いて貧者を慰められる(3:-6/9:10)

b. 主は信頼すべき岩。民の分け分は主。(12:-18:)

民を救い敵に復讐(18:), 復活(12:15:17) vs 喜楽(13:14:16)

b'. 岩なる牧者に信頼せよ。民は主の家に住む。(19:-31:)

善の道に導く。力ある王(19:-25:), 願いの声感謝の声(26:-31:)

a'. 主は正者をわざわいから救う。主に信頼する者は恵まれる。(32:-41:)

正者は良しとされ、悪者はいせされる(32:34:35/38:39:41) 天からの恵み、地からの恵み(33:36/37:40)

aa' 幸いなる民 悪者をさばき正者を祝福する(創149/申33/申34:ヨシヤアに示唆)

bb' 主は岩 主は救いと復讐の岩。岩なる牧者に感謝せよ(申32/申32:45の5aのことば)

ab 信すべき王 主が神とあり。(信すべきこと申1:-11: 26:16-34:)

ab' 信頼する民。主の民と守る。(信すべきこと申12:-26:15)

詩篇第1巻を分析してきて、細かいところから積み上げてきてやっと全体像のところまでできました。1篇ずつ分析して、各詩篇の組を探して、その組同士の関係を見て、組同士をまとめた関係をまた見て積み重ねてきました。キーワードを見て分析してきました。前回まとめたものがありましたが、わかりにくいので書き直しました。

全体第1巻を4つに、4集に分けることができるでしょう。1,2,3,4集ですね。11篇まで、12篇から、19篇から、32篇からという4つに分けることができますけれど、一番大切なところは、「abb'a'」の大きな枠組みでしょうということです。

aとa'を見ますと、正しい者と悪者をさばく。(1番目では)正しい者を悪や病いから救うというさばきのことと、貧しい者、正しい者が呼ぶと答えてくれる、信頼する者は必ず恵みを与えられるという並行ですね。

2番目のところでは、神様は信頼すべき岩である。18篇がありますね。民は神様ご自身が受ける相続分である。16,17あたりですね。それと、今度は岩なる牧者に…民の方ですね、民は岩に信頼しなさい、そして民は主の家に住むことができるようになります。ダビデに与えられた契約も王が与えられることと家が与えられることでしたね。それは、この第1巻の中でも言われているものですね。

- a. 主は正者と悪者をさばく。主は貧者が叫ぶと答える。(1:-11)  
 天の主と正者と悪者をさばく(1:2-7/8:11) 主は叫ぶと聞いて貧者を忘れない(3:-6/9:10)
- b. 主は信頼すべき岩。民の助けは主。(12:-18)  
 民を救い敵に復讐(18), 偽舌(12:15-17) vs 喜樂(13-14-16)
- b'. 岩なる牧者に信頼せよ。民は主の家に住む。(19:-31)  
 義の道に導く力ある王(19:-25), 願いの声感謝の声(26-31)
- a'. 主は正者をわざわいから救う。主に信頼する者は恵まれる。(32:-41)  
 正者は良しとされ、病者はいせされる(32:34-35/38:39-41) 天からの恵み、地からの恵み(33:36/39:4b)

例えば他に「信頼すべき岩」と言ったとき、民を救うことと敵に復讐すること、「民は受ける分」だと言っているのですけれど、いつわりの舌と本物のことば、口という口の戦いがあります。神様を喜び楽しむ主が受ける分であるということは主を喜び楽しむということによって表されていますよね。

「岩なる牧者に信頼せよ」というときに、義の道に導く、憐れんで罪を赦して洗い清めて義の道に導いてくれることと、国々を裁く、力ある王であるという二つのことがこの岩なる牧者という言い方にまとまっています。これは創世記49章からきている言い方です。その神様に対して願いの声、感謝の声で主の家に住んでいるならば、賛美を捧げて感謝を捧げる願いの家だ、祈りの家、感謝を捧げる家だということなのですけど、こちらに牧者がいるから…、この羊たちの声を聞いてくれる岩なる牧者に信頼しなさいということが、声が強調されているところでもわかるものだと思います。

aa' 幸いな民 悪者をさばき、正者を祝福する(創149, 申33:/申34:ヨシヤに知れ)

bb' 主は岩 主は救いと復讐の岩。岩なる牧者に感謝せよ(申32:/申32:45(1050のことば))

ab 信すべき王 主が神となり(信すべきこと 申1:-11, 26:16-34)

a'b' 信頼する民 主の民となる(行すべきこと 申12:-26:15)

このaとa'のつながり、aとa'のところは、幸いなものよで始まって、2篇も幸い、幸いに囲まれたもので始まっています。最後の4集は幸いが全体を囲んでいるものですから、「幸いな民」。悪者を裁いて正しい者に報いを与える。

真ん中のところは、18篇と31篇にあるように「主は岩」である、救いの岩、復讐する岩、それとその救いに対して感謝しなさいということがこの真ん中の二つです。

その二つは創世記49章と申命記33章。イスラエルの民に対して祝福を与える。申命記33章のところで初めて幸いな者よという言い方があって、それは「幸いな民イスラエル」という言い方が33章にあります。民を祝福して言ったというのが 創世記49章のヤコブの祝福とモーセの祝福のことば。「主は岩」というほうは申命記32章の「主は岩」であるという詩篇の最初のもの。この申命記のモーセの約束、アブラハムの契約が成就

するということを約束しているモーセの契約のことが、この第1巻の概略にもなっています。

最初から主のことばを賛美するところから始まっています。ヨシュアの詩篇からはじまっていますので、申命記33章と32章、この概略に囲まれているということが言えると思います。33章のほうには、34章のところで、ヨシュアに知恵の霊が与えられた。32章にはその後に、「これはいのちのことばです」という説明がつくのですよね、この歌のところに。ヨシュアに善と悪、正しい者と悪者を裁く知恵の霊が与えられている。国々を裁く知恵が与えられている。その民に与えられたみことばは、いのちのことばであるということが、この歌の後ろについている大切な部分になると思いますけれども、知恵といのちということがここにも書かれています。反対みたいな感じですよ。

こちら(aa')は祝福されていのちが与えられるほうで、こちら(bb')は裁かれるから知恵のような内容なのですけれど、言い方としては反対になって、知恵といのちがひとつですよということが現れていると思います。

aa'	幸いする民	悪者とはばき、正者を祝福する (創49 / 申33 / 申34: ヨシュアに知恵)
bb'	主は岩	主は救いと後援の岩、岩なる牧畜に感謝は (申32 / 申32:45 (いのちのことば))
ab	信ずべき王	主が神となり (信ずべきこと 申1:-11: 26:16-34:)
a'b'	信頼する民	主の民とする (行なすべきこと 申12:-26:15)

前半(ab)、後半(a'b')。「信ずべき王」、「信頼する民」。主は神となり民となるということで、(前半は)どちらかという主についてが中心、後半がどちらかという民側から信ずべきことと行うべきこと、それも申命記の全体の概略の信ずべきことと行うべき段落ということでも分かっているように、信ずべき神様と何を信頼して行うのか、民となるために何をすべきなのかということで見ることでもできると思いますけれど、詩篇の第1巻全体は、主は王となる、神となった、神であるということであらわしている一つの巻物になっているということがわかると思います。



